

飄々表具

杉本博司の表具表現世界

Frame of Japan



2020年4月4日[土]ー6月21日[日]

前期: 4月4日[土]ー5月17日[日] 後期: 5月19日[火]ー6月21日[日]

開館時間: 午前10時ー午後6時[入館は午後5時30分まで]

休館日: 毎週月曜日[5月4日は開館]

入館料: 一般 1,400円[1,300円] 学生 1,100円[1,000円] ※[]内は20名以上の団体

主催: 細見美術館 京都新聞

協力: 公益財団法人小田原文化財団 ギャラリー小柳

会場: 細見美術館

京都市左京区岡崎最勝寺町6-3 tel.075-752-5555 [http:// www.emuseum.or.jp](http://www.emuseum.or.jp)

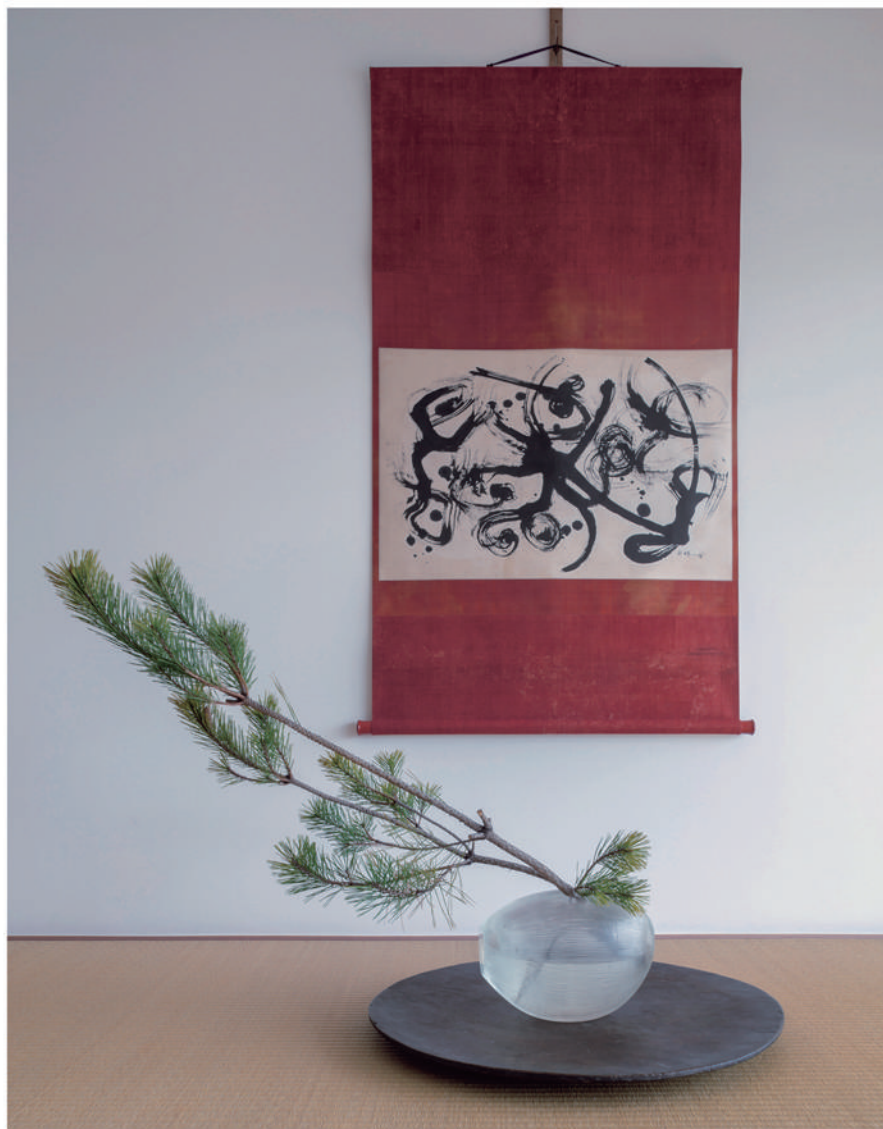
細見美術館

《劇場》《海景》等の写真シリーズで世界的に知られる現代美術作家、杉本博司。

その活動は古美術蒐集、建築、庭園、舞台演出、インスタレーションなど多岐にわたります。

細見美術館では、これまでに「趣味と芸術—味占郷」展(2016年)と「末法」展(2017年)で、杉本の視点で日本美術を紹介してきました。3回目となる今回は、「表具」がテーマです。杉本が自身の写真作品や古今東西の蒐集品を独自のイメージやセンスで新しい姿に仕立てた“杉本表具”と呼ばれる作品を展覧し、表具表現の可能性を探ります。さらに、杉本が細見コレクションから選んだ作品と“杉本表具”が競演する、初の試みともなります。

美術表現が多様化するこの時代に、飄々として世を渡る、数寄者杉本博司の美意識と、余芸というには余りある表現世界をご堪能ください。



杉本博司 | すぎもとひろし

1948年東京生まれ。1970年渡米。代表作に「ジオラマ」「海景」「劇場」シリーズ。2009年に公益財団法人小田原文化財団を設立。2017年10月「小田原文化財団 江之浦測候所」を小田原市江之浦にオープン。2001年ハッセルブラッド国際写真賞、2009年高松宮殿下記念世界文化賞(絵画部門)受賞。2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ叙勲。2017年文化功労者。

Frame of Japan

飄々表具 杉本博司の表具表現世界

関連イベント ※各イベントの詳細はホームページをご覧ください。

◎特別対談 at 茶室古香庵

杉本博司氏 × 千宗屋氏(武者小路千家15代家元後嗣)

4月26日(日) 午前11時～(約60分)

参加費: 1,000円

定員: 45名

※事前申込制(4月1日～)

◎ギャラリートーク

4月26日(日) 午後4時～(約45分)

※聴講無料 ただし別途入館料が必要

◎特別展示 at 茶室古香庵

杉本博司 × ぎをん齋藤「摺箔金銀波濤図屏風」

4月4日(土)、5日(日) 午前11時～午後5時

※入場無料

会期中のイベント

◎アクティブ鑑賞会「江戸琳派 四季の描表装」

4月18日(土) 午後2時～(約90分)

事前申込制・有料

◎英国スタイル ミニ茶会

5月23日(土) 午後2時～(約90分)

事前申込制・有料

◎友の会「古今」限定 観覧DAY⑦

6月21日(日) 午前9時30分～

会員無料

[次回展予告]

琳派展22 琳派の扇面と涼の美

2020年6月30日(火)～8月30日(日)



●市バス「東山二条・岡崎公園口」下車、徒歩3分。
●市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、徒歩5分。
●地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩10分。
ご来館には公共交通機関をご利用下さい。

写真:

表「華嚴滝図」杉本博司 1977年 小田原文化財団蔵 © Hiroshi Sugimoto/Courtesy of Odawara Art Foundation

裏「墨筆抽象画」白髪一雄 1960年代前半 個人蔵

「光輪 AUREOLA」三嶋りつ恵 2002年 個人蔵(本作は出品されません)

beyond
2020
京都文化力



細見美術館

京都市左京区岡崎最勝寺町6-3

<http://www.emuseum.or.jp>

展覧会「飄々表具 — 杉本博司の表具表現世界」

ちらし記載の情報に変更があります

2020年5月26日

会期：～2020年9月6日|日|

前期：～7月12日[日] 後期：7月14日[火]～9月6日[日]

開館時間：午前10時－午後4時[入館は午後3時30分まで]

入館料：団体割引料金はありません

| 会期中のイベント：友の会「古今」限定 観覧DAY

6月21日(日) 午後3時30分～4時30分

8月5日(水) 午前9時30分

[次回展予告]

細見コレクション展(仮) 2020年9月12日(土)～12月20日(日)

※状況の変化により さらに変更する場合があります。

細見美術館
京都新聞